



Title	内陸アジア言語の研究 XXII 裏表紙
Author(s)	
Citation	内陸アジア言語の研究. 2007, 22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/18430
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『内陸アジア言語の研究』執筆要項

1. 本誌は、中央アジアと中国を中心に、東は東北アジアから西は黒海沿岸にまで広がる中央ユーラシアの諸民族が用いる様々な言語、及びその言語で書き残された古代～近代の文献資料（出土文書・碑文・典籍など）を、言語学的あるいは歴史学的に扱う論文を掲載する。
2. 原稿は未発表のものに限る。ただし口頭発表したものはこの限りではない。
3. 原稿の長さは自由である。論文の場合、刷り上がり状態で20ページ（和文では400字詰め原稿用紙で約50枚、欧文では約6000語）を一応の目安とする。ただし、数ページ程度の研究ノートや資料紹介の類も歓迎する。なお、投稿の際、800字以内の論文概要を付し、原稿の分量（和文原稿の場合、400字詰め原稿用紙に換算した総頁数、欧文原稿の場合は総単語数とする）と図版枚数について明記すること。
4. 投稿の締め切りは毎年2月末日とする。査読の結果は追って通知する。
5. 入稿について

印字したワープロ完成原稿とともに電子データファイルを入稿する。ワープロにない漢字・記号などの部分は、当該箇所を空けて印字原稿に朱筆で指示する。写真・図版等は版下として利用に堪える鮮明なものを用意されたい。手書き原稿も受け付けるが、編集にかかる実費を請求する場合がある。

1) Macintosh 使用の場合

あらかじめ指定フォントで作成された原稿を入稿するのが望ましい。利用するワープロソフトの種類を編集部に連絡されたい。内陸アジア諸言語の転写に必要なフォントを編集部から配布する。

2) MS-DOS, Windows 使用の場合

Microsoft Word ファイルでの入稿が最も望ましいが、テキストファイル形式に変換したものも認める。

3) 論文末尾に執筆者の所属・肩書・専攻、表題の欧米語訳、執筆者名のローマ字表記を付記すること。

以上はあくまでも原則である。不明の点は編集部にお問い合わせされたい。

6. 書式として、以下の統一方針を定める。

1) A5版横組み、奇数頁起こしとする。

2) 句読点は「，．」を用い、「、。」は用いない。

3) 地の文にはつとめて当用漢字・新かなづかいを用い、旧字体・旧かなづかいの使用は引用文等で必要な場合のみにとどめる。

7. 原則として、著者校正は1回のみとし、再校は編集委員の責任とする。校正はあくまでも誤植の訂正にとどめ、原文の増減は認めない。

8. 抜刷は作成しない。各執筆者には本誌10部を献呈する。

2007年7月

執筆者紹介

佐藤 貴保 (Takayasu SATO)

神戸市外国語大学非常勤講師 東洋史学専攻

赤木 崇敏 (Takatoshi AKAGI)

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了 東洋史学専攻

坂尻 彰宏 (Akihiro SAKAJIRI)

甲南大学文学部非常勤講師 東洋史学専攻

呉 正科 (Wu Zhengke)

中国甘肃省張掖市甘州区博物館副館長

阿依達爾 米爾卡馬力 (AYDAR Mirkamal)

新疆大学人文学院副教授 古代回鶻文文献学専攻

楊 富學 (YANG Fuxue)

敦煌研究院民族宗教文化研究所研究員 古代回鶻史・文献学専攻

Ablet SEMET

Wissenschaftlicher Mitarbeiter, Freie Universität Berlin トルコ学専攻

松井 太 (Dai MATSUI)

弘前大学人文学部准教授 東洋史学専攻

中村 健太郎 (Kentaro NAKAMURA)

大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了 東洋史学専攻

磯貝 健一 (Ken'ichi ISOGAI)

京都外国語大学非常勤講師 中央アジア史専攻

矢島 洋一 (Yoichi YAJIMA)

京都外国語大学国際言語平和研究所嘱託研究員 中央アジア史・西アジア史専攻

鈴木 博之 (Hiroyuki SUZUKI)

日本学術振興会特別研究員・国立民族学博物館 チベット言語学専攻

Victor H. MAIR

Dr., Professor, Pennsylvania University 中国語学・中国文学・シルクロード研究専攻

内陸アジア言語の研究 XXII

ISSN 1341-5670

2007 年 7 月 24 日 印刷

2007 年 7 月 30 日 発行

責任編集 森 安 孝 夫 (大阪大学)
吉 田 豊 (京都大学)
Peter ZIEME (Freie Universität Berlin)

発 行 者 中央ユーラシア学研究会
〒 560 - 8532 豊中市待兼山町 1 - 5
大阪大学大学院文学研究科 森安研究室内
tel: 06 - 6850 - 5103 / fax: 06 - 6850 - 5103
e-mail: moriyasu@let.osaka-u.ac.jp
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/sial/index-j.html>

取 扱 店 株式会社 朋 友 書 店
〒 606 - 8311 京都市左京区吉田神楽岡町 8 tel: 075 - 761 - 1285
e-mail: hoyubook@mbox.kyoto-inet.or.jp
株式会社 東 方 書 店
〒 101 - 0051 東京都千代田区神田神保町 1 - 3 tel: 03 - 3294 - 1001
e-mail: shop@toho-shoten.co.jp
〒 564 - 0063 吹田市江坂町 2 - 6 - 1 tel: 06 - 6337 - 4760
e-mail: kansai@toho-shoten.co.jp

印 刷 所 有限会社 中部ワードサービス
〒 440 - 0865 豊橋市向山台町 10 - 10 tel: 0532 - 55 - 8503
e-mail: cws@mx1.tees.ne.jp

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES XXII

T. SATO, T. AKAGI, A. SAKAJIRI, WU Zhengke : Revisiting the Sino-Tibetan Bilingual Inscription of the Black River Bridge (黒水橋) from the Xi-xia (西夏)	
Period	1
AYDAR Mirkamal, YANG Fuxue : A Textual Research on the Uighur Fragment of Buddhāvataṃsakamahā-vaipulyasūtra	39
A. SEMET : Ein Beitrag zur alttürkischen Xuanzang-Biographie X	53
D. MATSUI : An Uigur Document Preserved in the Library of Istanbul University	61
K. NAKAMURA : Uigur Contribution to the Early Buddhist Mongolian Texts	71
K. ISOGAI, Y. YAJIMA : The Persian Inscription of 742 A.H. from Qara- qorum	119
H. SUZUKI : Eigentümlichkeit des in <i>Xifan Yiyu</i> Nr. 6 verzeichneten Tibetischen von Muping	157
Selected Bibliography of Victor H. MAIR	181

The Society of Central Eurasian Studies

2 0 0 7